

PANORAMA

**Nikon** ニス"ー 600

ZOOM 600 QD

使用説明書

J

## 安全上の「注意」

ご使用前にこの使用説明書をよくお読みいただき、充分ご理解のうえ正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

## ■表示について

製品を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、重要な内容を記載しています。表示と意味は次のようになっています。詳細につきましてはP.8～11をご覧ください。

**警告**

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

**注意**

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害の発生が想定される内容を示しています。

## ■絵表示の例



△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。

図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



○記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。

図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。

図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合は電池を取り出す）が描かれています。

このたびは、ニコン ZOOM600QDをお買い上げいただきありがとうございます。このカメラは、次のような特長がございます。

- (1) 38mm～110mmズーム内蔵でしかも携帯に便利なコンパクトサイズ。
- (2) 外部切り換えのできるパノラマ機構を内蔵(パノラマ時もデート写し込み可能)。
- (3) 自動スピードライト、スローシンクロ、赤目軽減など多彩なスピードライト撮影が楽しめます。

### ■アフターサービスと保証について

この製品には、保証書とご愛用者カードが付いていますのでご確認ください。保証書の詳細につきましては

ては、P.45「アフターサービスと保証について」の項をご覧ください。

### ■大切な撮影をするには試し撮りを

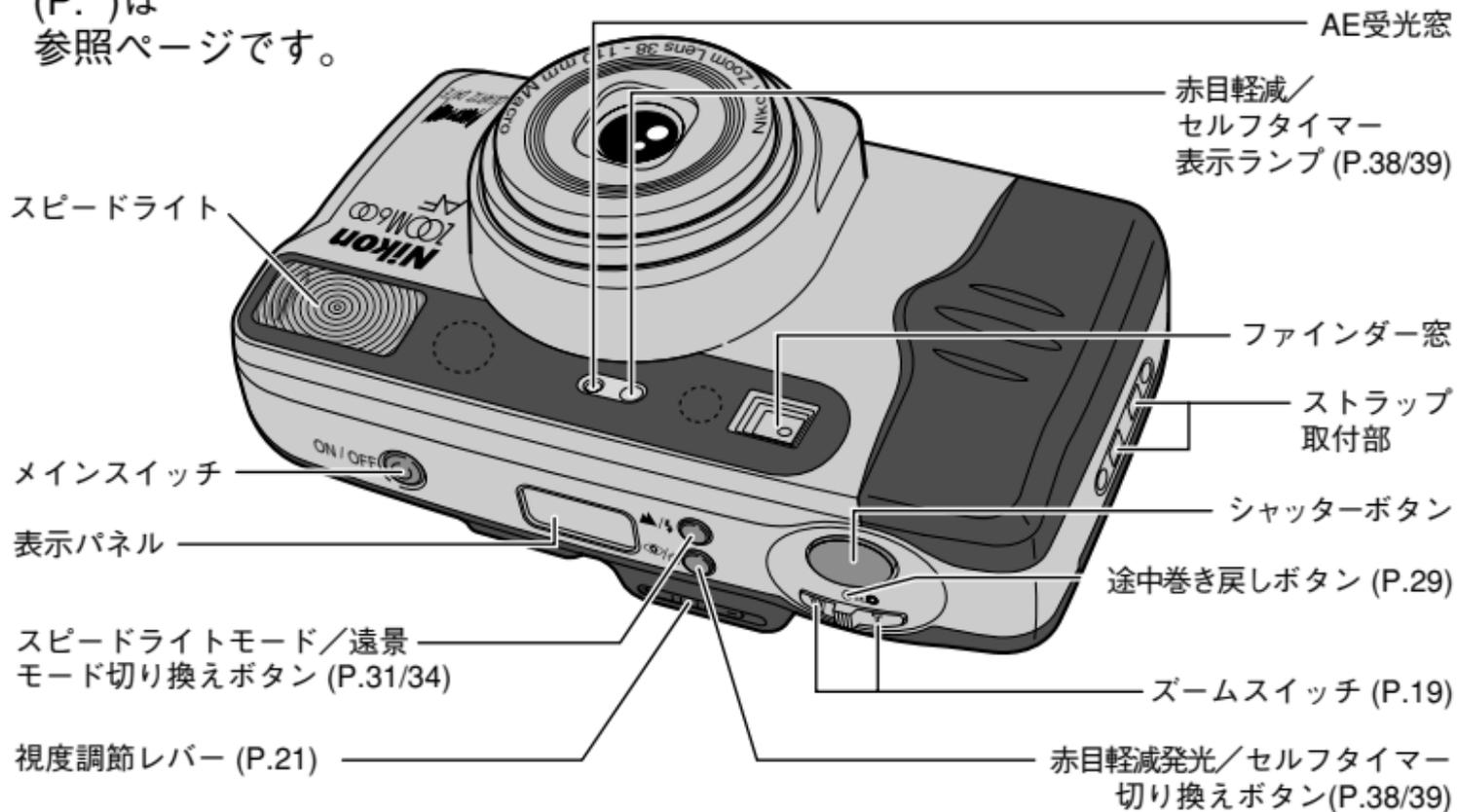
大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をするときには、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能するか事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的障害（撮影に要した諸経費および利益の喪失等に関する損害）については、補償いたしかねます。

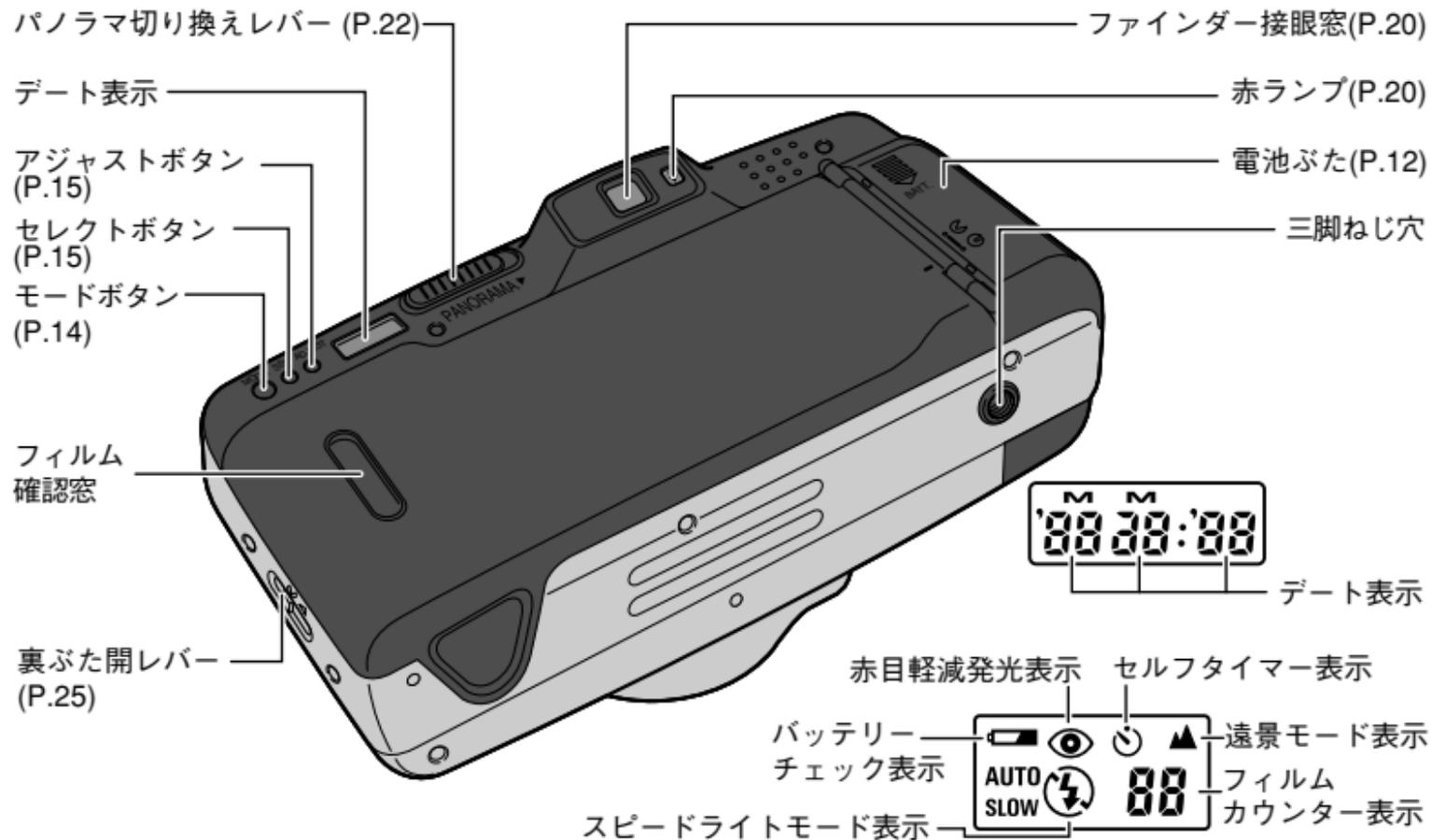
パノラマ撮影をされた後、現像、プリントをご依頼の際はP.23をお読みください。

CE “CEマーキング” について：CEはヨーロッパ協定（Conformité Européenne）の意味で、マーキングはその製品が適応されるEC規定をすべて満たしていることを表しています。

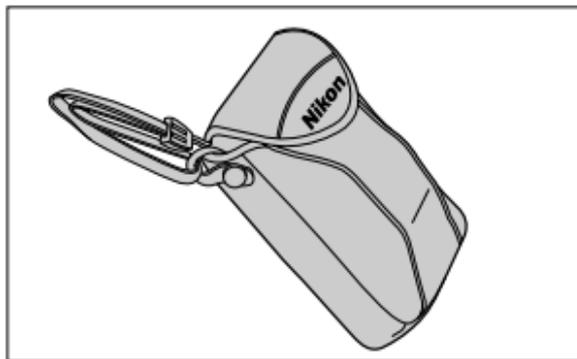
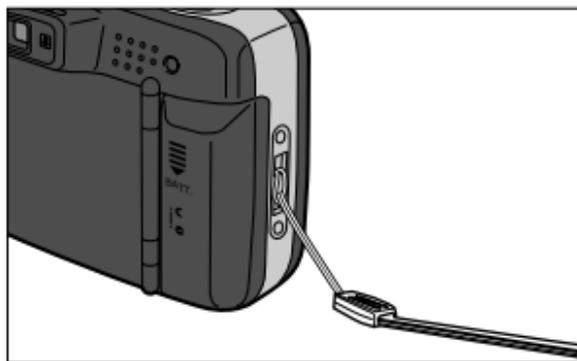
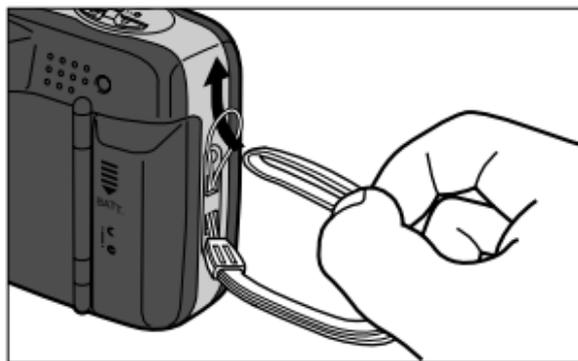
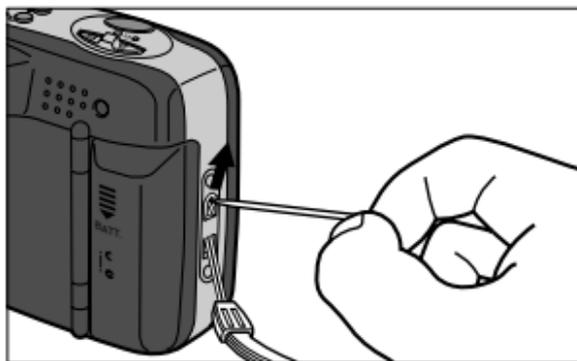
## 各部の名称

(P.)は  
参照ページです。





ストラップをストラップ取付部に先の細いものなどを使って通し、カメラボディに取り付けます。  
●持ち運びに便利なネックストラップAN-L10（別売り）もご用意してあります。



#### カメラケースCS-L13

カメラを保護する専用ソフトケースです。図のようにケースのタブ（輪）にカメラのストラップを通しておくと携帯に便利です。

## 目次

## 準備編

- 安全上のご注意 . . . . . 2  
はじめに . . . . . 3  
各部の名称 . . . . . 4~5  
ストラップとケースについて . . . . . 6  
警告/注意 . . . . . 8~11  
電池を入れ、容量をチェックしましょう . . 12~13  
日付・時刻をチェックしましょう . . . . . 14  
日付・時刻の修正方法 . . . . . 15~16

## 基本撮影編

- カメラを構えましょう . . . . . 17  
シャッターボタンの押し方 . . . . . 18  
ズームスイッチの操作方法 . . . . . 19  
ファインダー内表示について . . . . . 20~21  
標準撮影とパノラマ撮影を選びましょう . . 22~23  
フィルムを入れましょう . . . . . 24~25  
ピントを合わせ、シャッターをきりましょう . . 26~27  
フィルムの巻き戻しは自動です . . . . . 28~29

## 応用撮影編

- フォーカスロック撮影 . . . . . 30  
スピードライト撮影 . . . . . 31  
自動スピードライト撮影 . . . . . 32~33  
遠景撮影 . . . . . 34  
スピードライトキャンセル撮影 . . . . . 35  
スピードライト強制発光撮影 . . . . . 36  
スローシンクロ撮影 . . . . . 37  
赤目軽減撮影 . . . . . 38  
セルフタイマー撮影 . . . . . 39

## その他

- こんなときには-Q & A . . . . . 40~41  
取り扱い上のご注意 . . . . . 42~43  
電池に関するご注意 . . . . . 44  
アフターサービスと保証について . . . . . 45  
仕様 . . . . . 46~47



分解禁止

**分解したり修理・改造をしないこと**

感電したり、異常動作をしてケガをすることがあります。



接触禁止

**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと**

感電したり、破損部でケガをすることがあります。



すぐに修理依頼を

電池を抜いて、販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。



電池を取る

**発熱、発煙、焦げ臭いなどの異常時は、速やかに電池を取り出すこと**

そのまま使用すると火災、火傷の原因となります。



分解禁止

電池を取り出す際、火傷に十分注意すること。

電池を抜いて、販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。

  
警告  
告示

水かけ禁止

水につけたり水をかけたりしないこと  
発火したり感電することがあります。



使用禁止

可燃性ガスの雰囲気中で使用しないこと  
爆発、火災の原因になることがあります。



禁止

ストラップが首に巻き付かないようにすること  
特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと  
首に巻き付いて窒息することがあります。



見ないこと

ファインダーより直接太陽や強い光を見ないこと  
失明や視力障害になることがあります。

  
注意

目の近くでスピードライトを発光しないこと  
一時的な視力障害になることがあります。



ぬれた手で操作しないこと  
感電の原因となります。



製品および付属品は、幼児の手の届かない所に保管すること  
ケガをしたり付属品や電池を飲み込む恐れがあります。



使用しないときは、レンズカバーを閉じて、太陽光のあたらない所に  
保管すること  
太陽光がレンズに入射し、発火の原因となります。

  
注意

三脚にカメラを取り付けたまま移動しないこと  
転倒したりぶついたりしてケガの原因となります。



電池を火に入れたり、ショート、分解、加熱をしないこと  
破裂、発火の原因となります。



電池に表示された警告・注意を守ること  
破裂、発火の原因となります。



使用説明書に表示された電池を使用すること  
発熱、発火の原因となります。

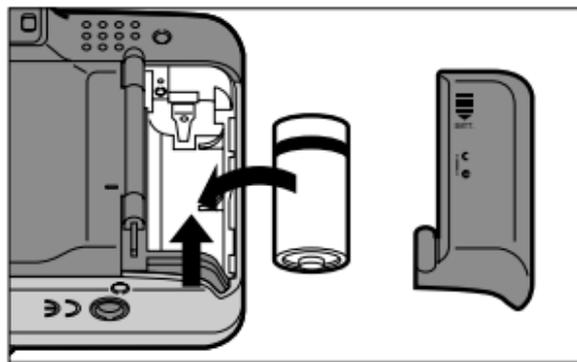
## 電池を入れ、容量を チェックしましょう

カメラ本体とデート機構の電源は共用していますので、電池交換時は必ずデート（日付・時刻）を修正してください（P.15参照）。また、電池消耗時の交換以外は、電池を抜かないでください。

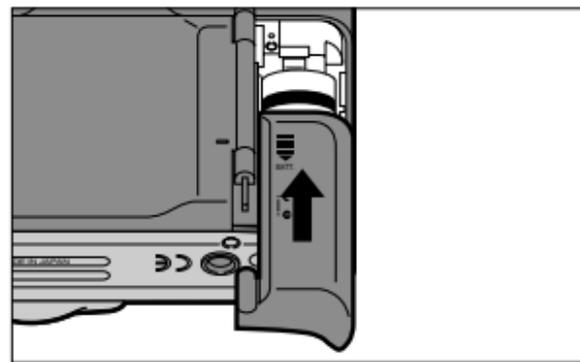
**警告**

放置禁止

電池は、幼児の手の届かない所に保管すること  
万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに  
医師と相談してください。

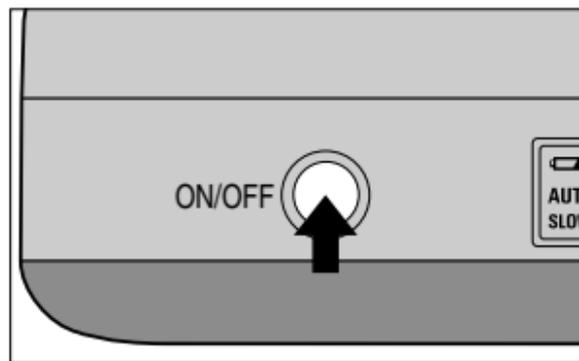


**1** 電池室カバーを下にスライドさせて開け、電池を電池室内の表示⊕・⊖に合わせて正しく入れます。



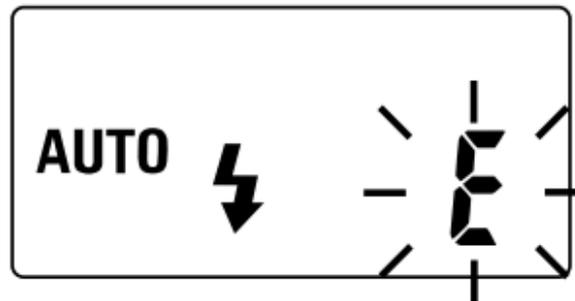
**2** 電池室カバーの"ⓐ"マークとボディの"ー"マークとを合わせ、上にスライドさせカチッと音がするまでしっかり閉じます。

●使用できる電池は、3Vリチウム電池のCR123AまたはDL123Aタイプ1個です。



**3** メインスイッチを押して電源をONにすると、レンズが広角（38mm）の位置まで繰り出されます。

●フィルムが入った状態で電池を交換した場合は、交換後シャッターボタンを押してください。シャッターはきれず、1コマ巻き上がり撮影可能となります。カウンターは"1"となります。



**4** 表示パネルで電池の容量を確認します。上図のような表示がされていれば、電池容量は充分です。

●電池の容量が不十分な場合表示が薄いとき、消えているとき、また、“”が点滅している場合は、新しい電池と交換し、日付・時刻も修正してください。

●スイッチON後、テレ（望遠）側で何もしない状態が1分続くとレンズは自動的にワイド（広角）の位置に戻ります。電池消耗を防ぐためご使用後は必ずメインスイッチを押して電源をOFFにしてください。

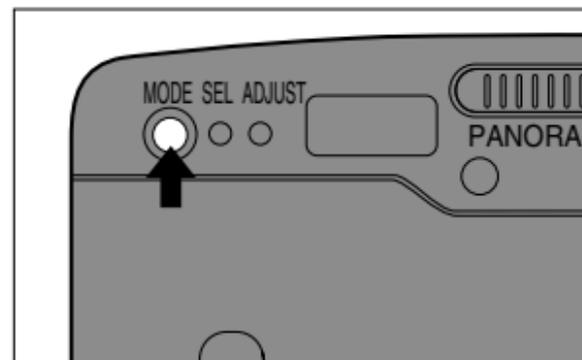
## 日付・時刻を チェックしましょう

デート表示の日付、時刻を確認してください。正しくない場合はP.15を参照し、修正してください。

モードボタンを1回押すごとに写し込まれるデート表示は右記の順に切り換わり、写し込みたいデートが選べます。

- デート機構の電源はカメラ本体の電池と共用です。電池交換時には、デートの修正を必ず行ってください。

'93 M 1 1	[年・月・日]
M 1 1 '93	[月・日・年]
1 M 1 '93	[日・月・年]
1 15:30	[日・時・分]
----	[写し込みなし]



## 日付・時刻の 修正方法

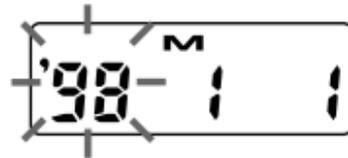
修正するときは、[年、月、日] [時、分] に分けて修正してください。

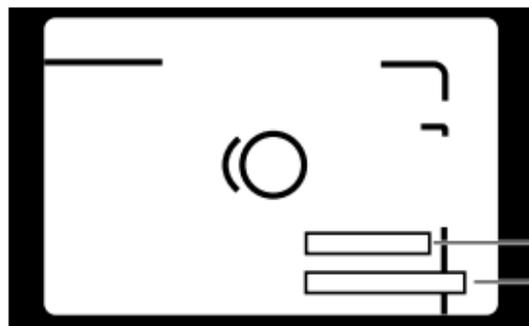
MODE SEL ADJUST



### ■ [年・月・日]、[時・分] を修正する場合

- (1) モードボタンを押して年・月・日にします。
  - (2) セレクトボタンを押して“年”の数字を点滅させます。
  - (3) アジャストボタンで数字を選択し修正します。
- 1回押すと“1”進み、押し続けると早送りができます。
- (4) 同様にして月・日および時・分を修正します。
  - (5) 最後にセレクトボタンを押して、すべての表示が点灯すれば修正は終了です。
- 各ボタンの操作はシャープペンシルの先などを使って行ってください。





パノラマ時写し込み位置

標準時写し込み位置

デート写し込み位置は上図を目安にしてください。

●写し込み位置と被写体が次のようなときは、写し込みデートが判別しにくくなることがあります。

- (1) 白いまたは明るい場合。
- (2) 赤色、オレンジ色や黄色の場合。

●フィルムの規定枚数以上の撮影コマには、デートが写し込まれなかったり、写し込み途中で終了する場合がありますので、規定枚数以内での撮影をおすすめします。

●ISO感度の50使用時では、デート文字が薄くなることがあります。また、1600使用時ではデート文字がにじむことがあります。

## カメラを 構えましょう

手ブレを起こしては、シャープな写真は撮れません。手ブレを起こさないよう、右記を参考にしてください。



〔横に構える場合〕

ひじを体に軽く付け、手のひらにカメラを包み込むようにしてカメラを顔につけて、両腕でしっかり構えます。

- 手や髪の毛などがレンズ、スピードライトなどをおおわないようにします。

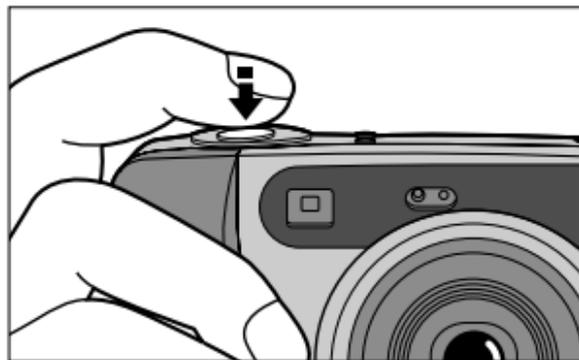


〔縦に構える場合〕

- 縦位置で撮影するときは、スピードライト側が上になるようにします。

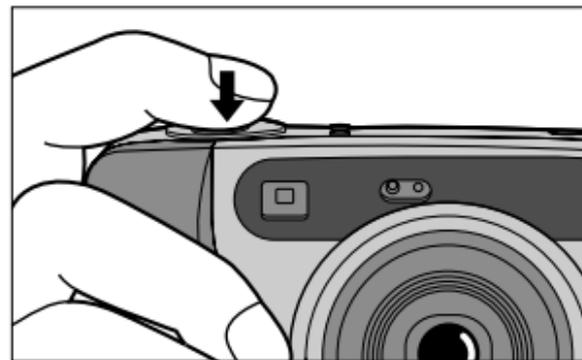
## シャッターボタンの押し方

シャッターボタンの押し方には2段階があります。



**1** シャッターボタンを軽く押します（これを半押しといいます）。

●この操作でカメラはピント合わせを行い、赤ランプ（AF表示ランプ）が一瞬点灯します。半押し中はピントはそこで固定（フォーカスロック）されます。



**2** シャッターボタンをさらに押し込みます（この操作によりシャッターがきれ、撮影できます）。

●いききにシャッターボタンを押し込むと手ブレの原因となります。

## ズームスイッチの 操作方法

ファインダーをのぞき、ズームスイッチを操作すればワイド（広角）～テレ（望遠）（38mm～110mm）の間で被写体の大きさを自由に変わります。



〔ワイド（広角）の場合〕  
“W” を押すとワイド（38mm）側になります。広い範囲が写せるので、風景や大勢の人を写すのに適しています。

●テレ（望遠）からワイド（広角）にズーミングする際に一瞬レンズカバーが閉じますが、故障ではありません。

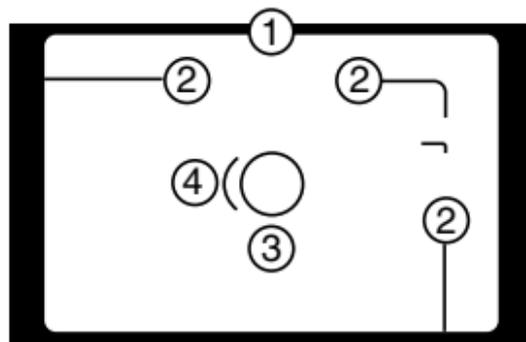


〔テレ（望遠）の場合〕  
“T” を押すと、テレ（110mm）側になります。遠くに離れている人やものを大きく写すのに適しています。

## ファインダー内 表示について

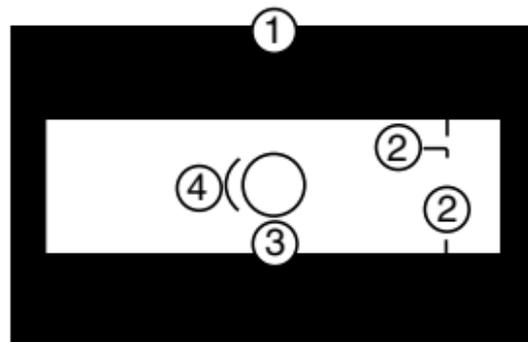
このカメラは標準撮影、パノラマ撮影の切り換えを行うと、ファインダー内のフレームも変化します。

視度調節機能はカメラのファインダーをのぞいた時ファインダーの像を確認しやすくなります。



[標準撮影の場合]

- ① 撮影範囲フレーム
- ② 近距離補正マーク  
被写体までの距離が約1m～0.86mの場合は、近距離補正マーク内のものが写ります。約0.86mより近づくと、シャッターボタンがロックされ警告します。なお、警告表示はありません（撮影距離が極端



[パノラマ撮影の場合]

- に近いときはシャッターボタンがきれる場合もありますのでご注意ください。
- ③ オートフォーカスフレーム
- ④ 近距離補正オートフォーカスフレーム
- ⑤ 赤ランプ（AF表示ランプ／スピードライト発光予告／スピードライト未充電警告ランプ）

**注意**

切り換え注意

ファインダーをのぞいた状態で、視度調節レバーをスライドさせる際、目に近い位置での操作となりますので、指先やつめで、目を傷つけないように注意してください。

### 赤ランプの点灯・点滅について

シャッターボタンを半押ししたとき、赤ランプが次のような表示を行います。

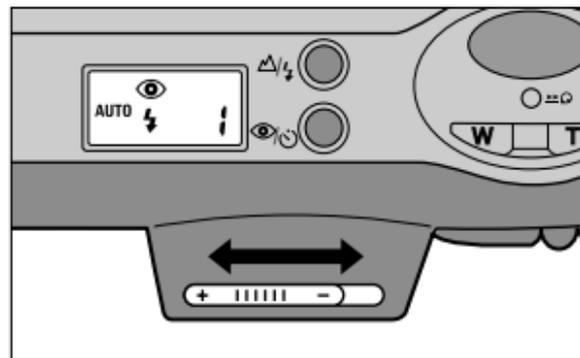
点灯：撮影OKです。

点滅：スピードライトが充電中です。

一瞬点灯：ピント合わせが完了です。

### [視度調節機能について]

カメラのファインダーをのぞいた状態で、視度調節レバーをスライドさせて、もっともファインダー内の像が見やすい位置までレバーを動かします。



## 標準撮影とパノラマ撮影を選びましょう



**注意**

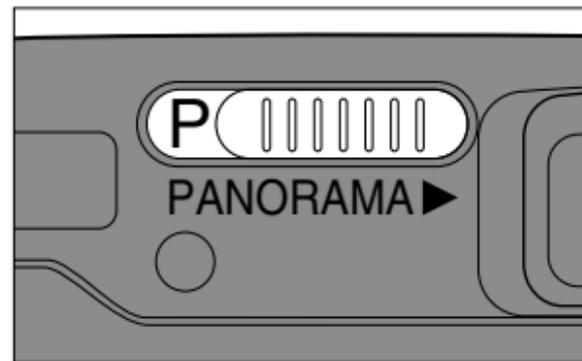


切り換え禁止

プリントタイプの切り換えは、ファインダーをのぞいたまましないこと  
指先やつめで目などを突き、ケガの原因となります。

標準撮影とパノラマ撮影の切り換えは“パノラマ切り換えレバー”をスライドさせてセットします。

パノラマ撮影の場合は黄色地にPマーク、標準撮影の場合は右側に黒色の帯となります。



### ●パノラマ撮影とは

35mmフィルムの標準撮影画面1コマ分の上下を遮光して、約13mm×36mmの画像を写し込み、プリント段階で約12mm×35mmの範囲を約89mm×254mmパノラマサイズプリントに引き伸ばしたものです。



標準撮影の場合  
(切り換えレバー左)



パノラマ撮影の場合 (切り換えレバー右)

- パノラマ撮影時、構図を決めるときは、画面の上下に少し余裕を持たせてください。上部がカットされる場合があります。
- 写し込みデートが標準時より大きくなります。

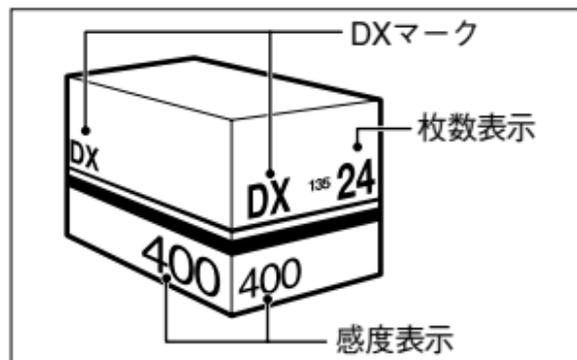
- パノラマ撮影後に現像とプリントを依頼される場合は、次のように付属のシールをフィルムのDXコード以外の部分に貼ってお出してください。

混在  
パノラマ/標準
 パノラマ撮影、標準撮影混在の場合
 全数  
パノラマ
 全数パノラマ撮影の場合

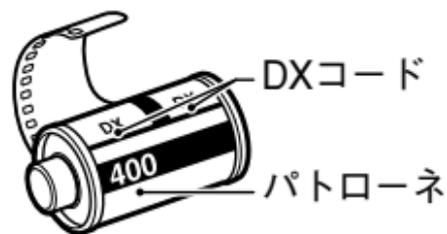
- 「全数パノラマシール」または「混在パノラマ/標準」シールがなくなった場合は、当社サービスセンター、サービスステーションにお問い合わせください（裏表紙をご参照ください）。
- パノラマでプリントする場合、標準の同時プリントに比べ料金が異なり、また日数もかかります。詳しくは、プリントご依頼時にご確認ください。
- パノラマで撮影したフィルムを標準のプリントにすると、画面の上下に黒い帯が写し込まれます。プリントのご依頼の際はご注意ください。

## フィルムを 入れましょう

このカメラには、35mmDXの  
フィルムをご使用ください。

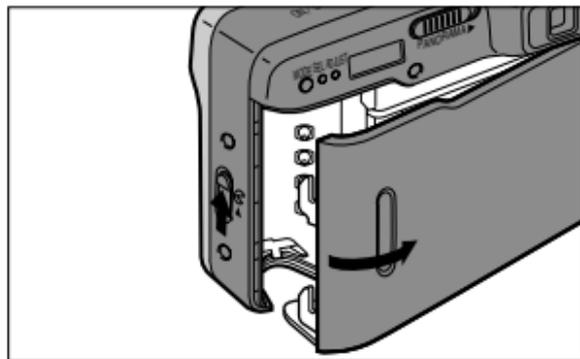


- DXマークの表示されたDXフィルムを使用すると、フィルム（ISO）感度が自動的にセットされます。
- フィルム（ISO）感度についての詳細は「フィルム（ISO）感度のセットについて」（P.33）をご覧ください。



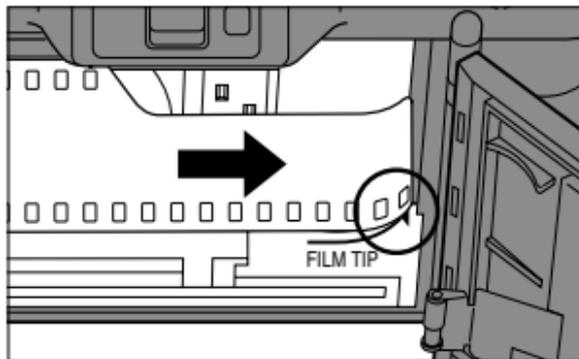
### ■ご注意

パノラマシールは、撮影前には絶対に貼らないでください。必ず撮影後にDXコード以外の部分に貼って、プリントに出してください。



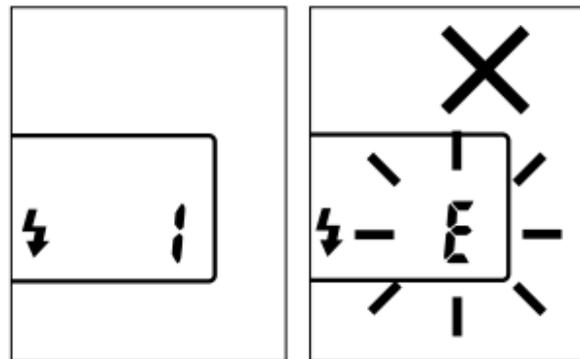
**1** 裏ぶた開レバーをスライドさせて裏ぶたを開き、フィルムを入れます。

- フィルムを入れたり、取り出したりするのは、必ず直射日光の当たらないところで行ってください。



**2** フィルムの先端を引き出し、フィルム位置マーク“”に合わせます。

- フィルムが浮かないように指で軽く押さえ、裏ぶたをパチンと音がするまで閉じてください。

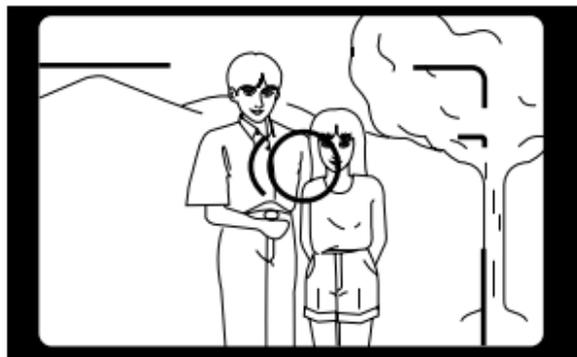


**3** 裏ぶたを閉じると、フィルムは自動的に送られます。

- メインスイッチをONにしてフィルムカウンターが“!”を表示すれば装てん完了です。
- フィルムカウンターに“E”が点滅したら、フィルムを正しく装てんし直してください。

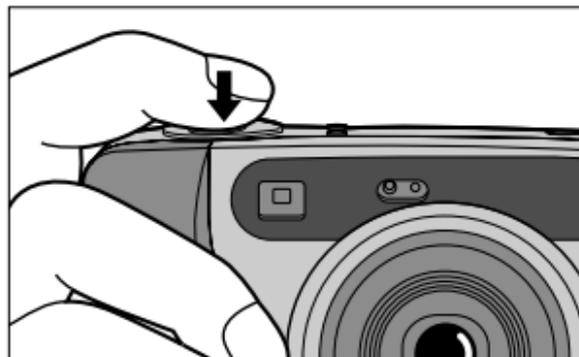
## ピントを合わせ、 シャッターを きりましょう

- ピントを合わせたいものがオートフォーカスフレーム“○”から外れる場合は「フォーカスロック撮影」(P.30参照)を行ってください。



- 1 被写体にオートフォーカスフレーム“○”を合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

- ピントが合うと、赤ランプが一瞬点灯します。



- 2 シャッターボタンをさらに押し込み、シャッターをきります。

- メインスイッチをONにしたとき自動スピードライトモードにセットされますので、暗いときには自動的にスピードライトが発光します (P.32参照)。

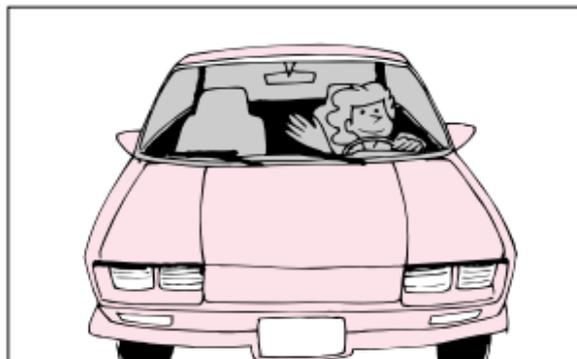
■次のような被写体は、オートフォーカスではピントが合いにくい被写体です。フォーカスロック（P.30参照）でいったん被写体と同じ距離にあるものにピントを合わせてから撮影してください。



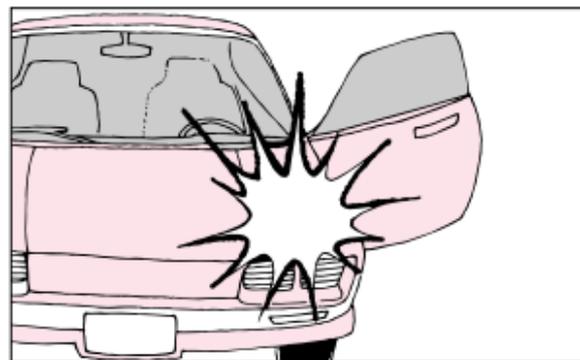
●オートフォーカスフレームでカバーできない小さな被写体



●髪の毛など、黒くて反射しにくい被写体



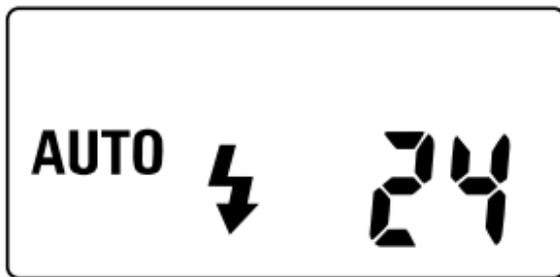
●ガラス越しの被写体



- 自動車のボディなど、光沢のある被写体
- 花火、ロウソクの火など、実体のない被写体
- ピントを合わせたい被写体の手前に、別の被写体があるとき

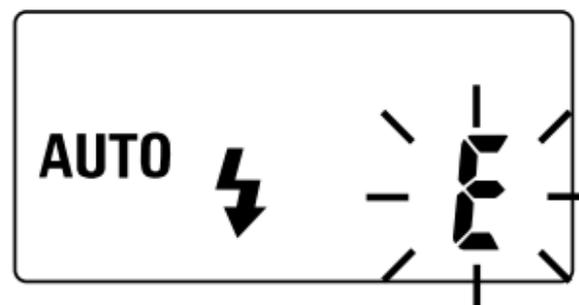
## フィルムの 巻き戻しは自動です

最後の1コマを撮り終ると、自動的に巻き戻しが開始されます。



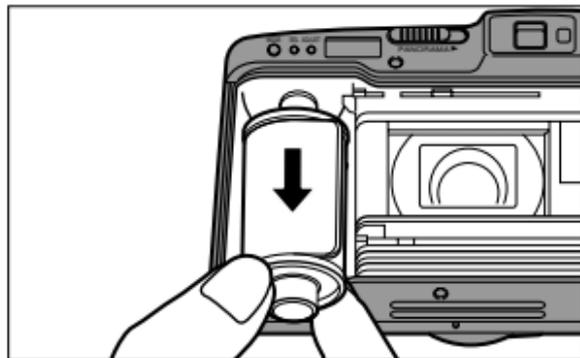
1 最後のコマが終わると、巻き戻しが自動的に開始されます。

●フィルムの巻き戻しはフィルムカウンターの数値が減っていくことによって確認できます。

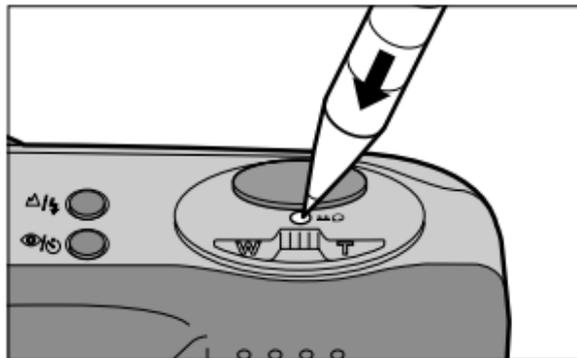


2 フィルムカウンターに“E”が点滅表示されれば、巻き戻し完了です。

- 巻き戻しが完了するまで絶対に裏ぶたを開けないでください。
- 巻き戻しが完了したら、必ずフィルムを取り出してください。



- 3 裏ぶた開レバーをスライドさせて裏ぶたを開き、フィルムを取り出します。



**[フィルムの途中巻き戻し]**  
途中巻き戻しボタン“”をシャープペンシルの先などで押してください。巻き戻しが開始すれば、ボタンを押し続けなくても最後まで巻き戻しが行われます。

- 電池消耗により巻き戻し途中で巻き戻しが停止した場合、電池交換後、巻き戻しボタンを2度押してください。巻き戻しが再開します(同時に日付・時刻も確認してください)。

[パノラマ撮影後に現像とプリントを依頼される場合]

- 次のように付属のシールをフィルムのDXコード以外の部分に貼ってお出してください。

**混在** パノラマ撮影、標準撮影混在の場合  
パノラマ標準

**全数** 全数パノラマ撮影の場合  
パノラマ

詳細は、P.23もご覧ください。

## フォーカスロック 撮影

ピントを合わせたいものが、画面中央のオートフォーカスフレームから外れる場合に使用します。

●フォーカスロック撮影はオートフォーカスではピントが合いにくい被写体（P.27参照）にも効果的です。



1 あらかじめ撮りたい構図を決めておき、いったんピントを合わせたいものにオートフォーカスフレーム“○”を合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

●ピントが合うと、赤ランプが一瞬点灯します。



2 シャッターボタンを半押ししたまま撮りたい構図に戻して、さらにシャッターボタンを押し込み、シャッターをきります。

●このときにピントを合わせたいものまでの距離を変えないでください。

## スピードライト撮影

このカメラには4つのスピードライトモードとスピードライトが発光しない遠景モードとスピードライトキャンセルモードがあります。

- メインスイッチをONにしたときは、自動的に自動スピードライトモードにセットされます。

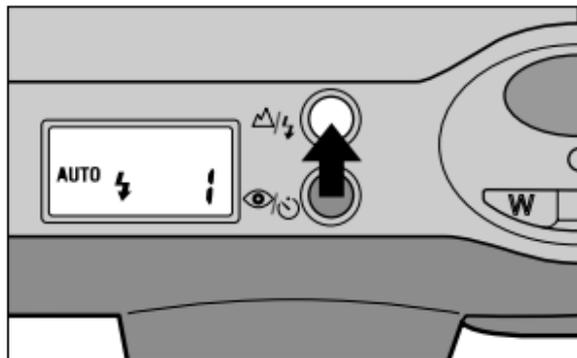


**注意**



発光禁止

目の近くでスピードライトを発光しないこと  
一時的な視力障害になることがあります。



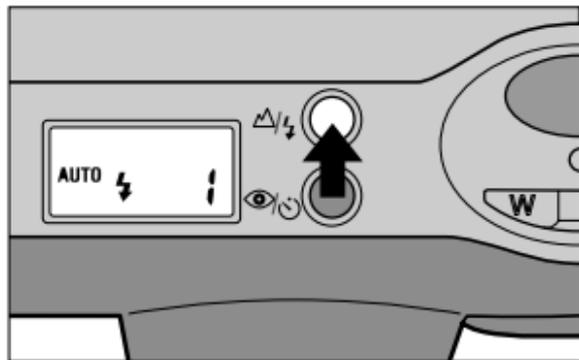
スピードライトモード切り換えボタンを1回押すごとに次のようにモードが切り換わります。

AUTO ⚡	自動スピードライトモード
⚡ ▲	遠景モード
⚡ ○	スピードライトキャンセルモード
⚡	強制発光モード
AUTO SLOW ⚡	スローシンクロモード

- 赤目軽減発光につきましては、赤目軽減発光切り換えボタンによるセットとなります (P.38 参照)。

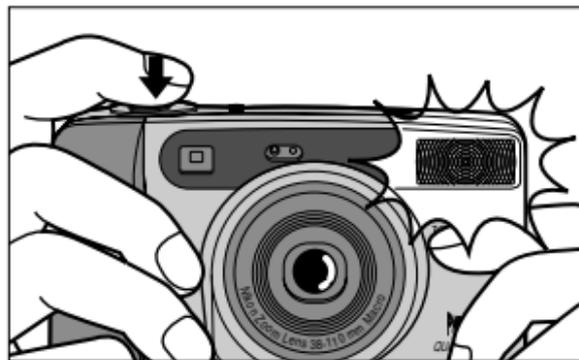
## 自動スピードライト 撮影

自動スピードライトモードにセットされていれば、暗いときには自動的にスピードライトが発光します。



**1** スピードライトモード切り換えボタンを押して“**AUTO**⚡”を表示させます。

●ファインダー横の赤ランプが点灯すれば、スピードライト撮影OKです。



**2** 構図を決め、シャッターボタンを半押しし、赤ランプの点灯を確認して、シャッターをきります。

●赤ランプが点滅中（充電中）は、シャッターはきれません。しばらくしてシャッターボタンを半押しし、点灯すればスピードライト撮影が行えます。

■スピードライト光の届く範囲について  
スピードライト撮影時のスピードライト光の届く範囲は、使用するフィルムの感度（ISO）によって異なりますので、下表を目安としてください。

使用フィルムの感度（ISO）	スピードライト撮影可能範囲	
	W（広角／38mm）	T（望遠／110mm）
50	0.86～4.6m	0.86～1.7m
100	0.86～6.5m	0.86～2.4m
200	0.86～9.2m	0.86～3.4m
400	0.86～13.1m	0.86～4.8m
800	0.86～18.5m	0.86～6.8m
1600	0.86～26.1m	0.86～9.6m

※上の表はネガカラーフィルムの撮影可能範囲です。  
リバーサルフィルムの場合の撮影可能範囲は、望遠側ではネガカラーフィルムの約2/3程度となります。

■フィルム（ISO）感度のセットについて  
DXフィルムのフィルム（ISO）感度とカメラにセットされるフィルム（ISO）の関係は下の表の通りです。

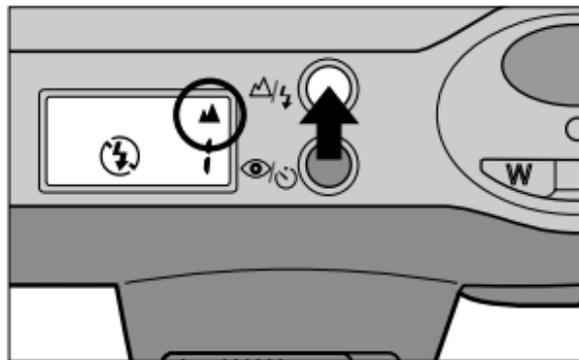
使用できるDXフィルムの感度(ISO)	カメラにセットされるフィルム感度 (ISO)
50～80	50
100 125 160	100
200 250 320	200
400 500 600	400
800 1000 1250	800
1600～2500	1600

※リバーサルフィルムをご使用の場合は、上表の網掛け部分の感度のものをお選びください。

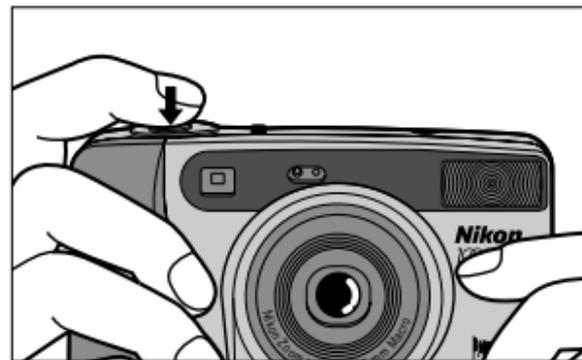
●DXフィルム以外のフィルムを使用した場合は、すべてカメラが自動的にフィルム感度をISO100にセットします。

## 遠景撮影

遠くの景色を、よりシャープに撮影したいときや、窓越しに景色を撮影するときにおすすめします。



1 遠景モード切り換えボタンを押して“▲”を表示させます。

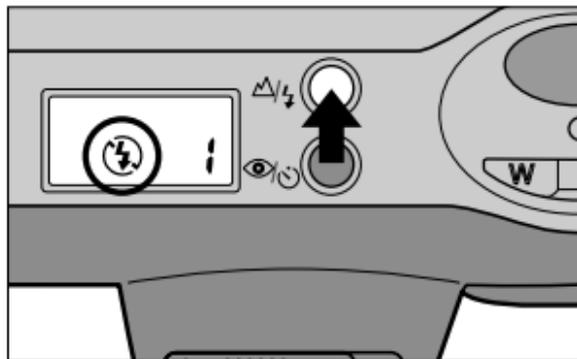


2 構図を決め、シャッターをきります。

●遠景モード時には、スピードライトは自動的にキャンセルされます。

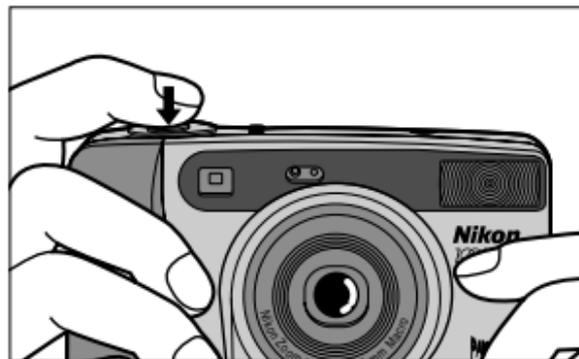
## スピードライト キャンセル撮影

夕景や夜景の撮影、フラッシュ撮影が禁止の場所での撮影などに便利です。



**1** スピードライトモード切り換えボタンを押して“”を表示させます。

●シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレ防止のため三脚のご使用をおすすめします。

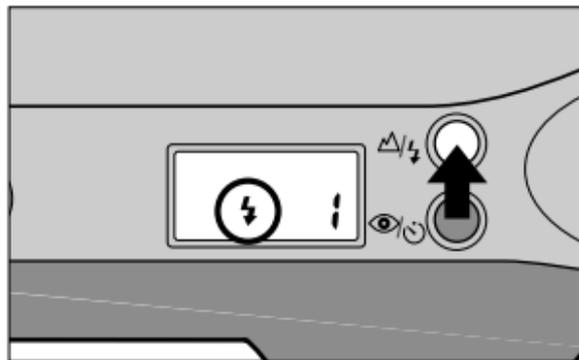


**2** 構図を決め、シャッターをきります。

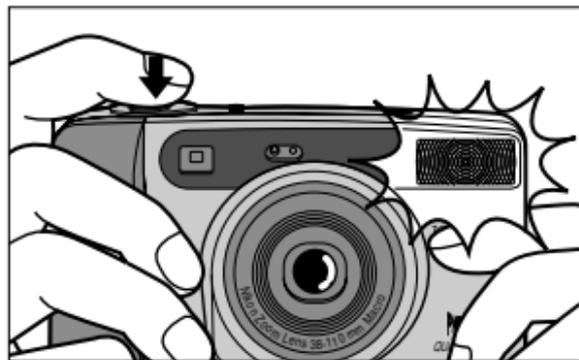
●撮影距離が約0.93mより近づくと、シャッターボタンがロックされ警告します。なお、警告表示はありません。

## スピードライト 強制発光撮影

逆光や日陰でも人物を明るく写すことができます。



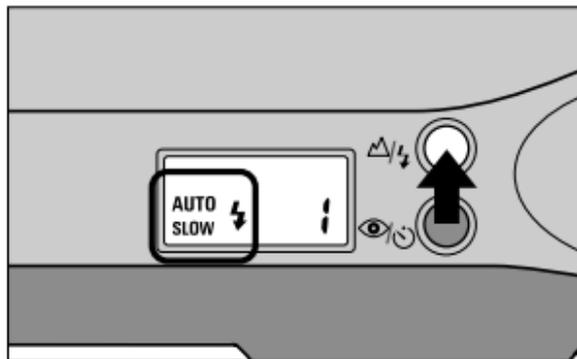
- 1 スピードライトモード切り換えボタンを押して“⚡”を表示させます。



- 2 構図を決め、シャッターボタンを半押しし、赤ランプの点灯を確認して、シャッターをきります。

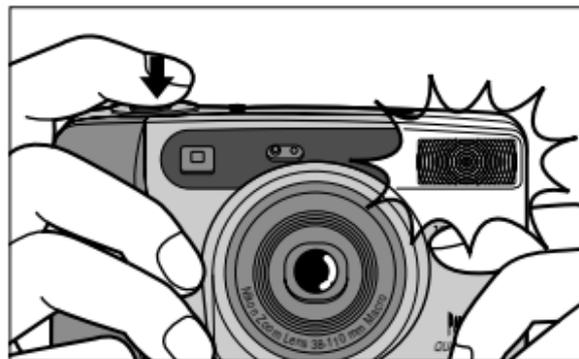
## スローシンクロ撮影

被写体となる人物の背景にある、夕景や夜景の雰囲気を生かした撮影ができます。



1 スピードライトモード切り換えボタンを押して” AUTO SLOW ⚡”を表示させます。

●シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレ防止のため三脚のご使用をおすすめします。

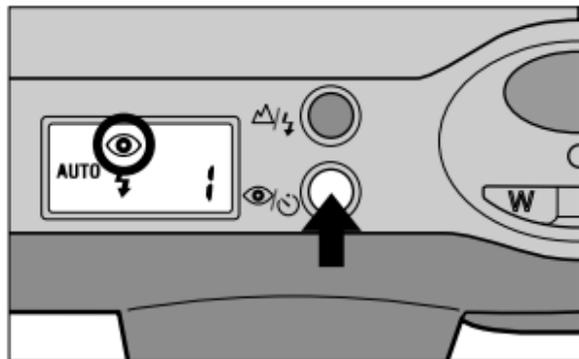


2 構図を決め、シャッターボタンを半押しし、赤ランプの点灯を確認して、シャッターをきります。

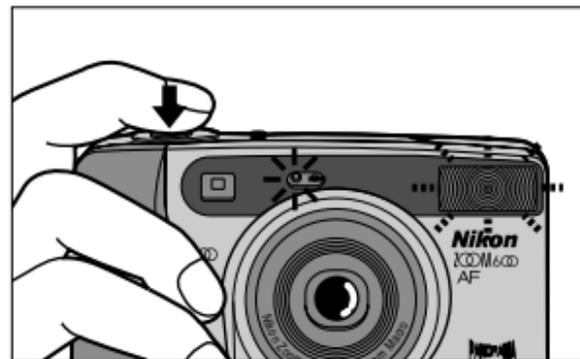
## 赤目軽減撮影

暗い場所で人物の目が赤く写るのを軽減させたいときに便利です。

- スピードライトキャンセルモードおよび遠景モードがセットしてあると、赤目軽減撮影は行われません。
- シャッターがきるまで、カメラを動かしたり、被写体の人物が動いたりしないよう注意してください。



- 1 赤目軽減発光切り換えボタンを押して“眼”を表示させます。



- 2 シャッターボタンを押すと、1秒間赤目軽減ランプが点灯した後スピードライトが発光しシャッターがきれます。

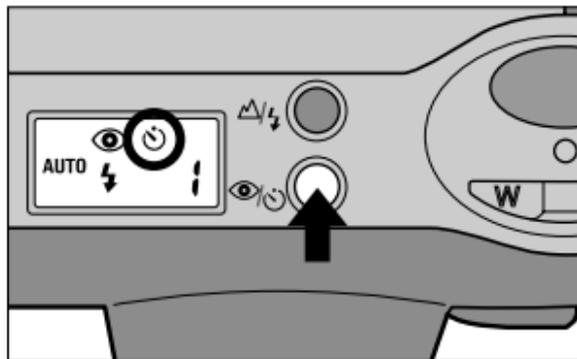
- 赤目軽減発光/セルフタイマー切り換えボタンを1回押すごとに、表示が次のように切り換わります。



## セルフタイマー撮影

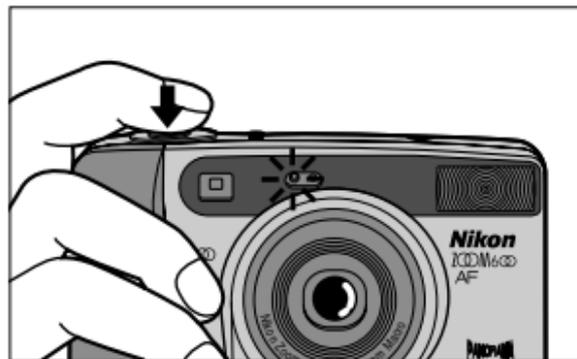
記念撮影など撮影者自身も写真に加わりたいときなどに便利です。

- セルフタイマーセット時は赤目軽減発光が自動的にセットされます。



- 1 セルフタイマー切り換えボタンを押して“⌚”を表示させ、三脚などに固定して構図を決めます。

- スピードライト未充電時（赤ランプが点滅中）は、セルフタイマーは作動しません。



- 2 シャッターボタンを押すとセルフタイマー表示ランプが点滅し、約10秒後にシャッターがきれます。

- 途中解除するときは、メインスイッチをOFFにすると解除されます。
- セルフタイマー撮影は、一度撮り終ると解除されます。

こんなときには	ここをチェック	こうしてください	参照ページ
1.シャッターが きれない	①メインスイッチがOFFになって いませんか？	①メインスイッチをONにしてください。	P.13
	②電池が消耗していませんか？	②バッテリーをチェックして、電池 が消耗していれば、新しい電池と 交換してください。	P.12/13
	③シャッターボタンを半押しした とき、ファインダー横の赤ラン プが点滅しませんでしたか？	③スピードライト充電中です。シャ ッターボタンを半押しして、ファ インダー横の赤ランプが点灯すれ ば、シャッターはきれます。	P.21
	④被写体までの距離が約0.86m (スピードライトキャンセル撮 影時は約0.93m) より近くあり ませんでしたか？	④カメラから被写体までの距離が近 すぎます。もう少し被写体から離 れて撮影してください。	P.20

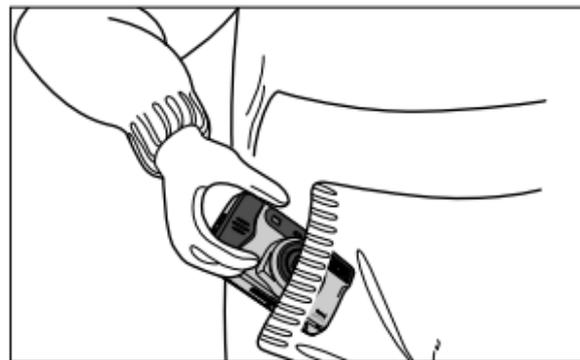
こんなときには	ここをチェック	こうしてください	参照ページ
2.スピードライトが発光しない	①電池が消耗していませんか？	①シャッターがきれないときの②と同じように対応してください。	P.12/13
	②被写体が明るすぎませんか？	②被写体が明るいと、スピードライトは発光しません。必要なときは、強制発光モードにセットしてください。	P.32/36
3.ピントがボケる	①オートフォーカスフレームが被写体からずれていませんか？	①オートフォーカスフレームを確実に被写体に合わせてください。または、フォーカスロック撮影を行ってください。	P.26/30
	②手ブレではありませんか？	②シャッターボタンを押すときには、カメラが動かないように、シャッターボタンをゆっくり押してください。	P.18

## 取り扱い上の注意

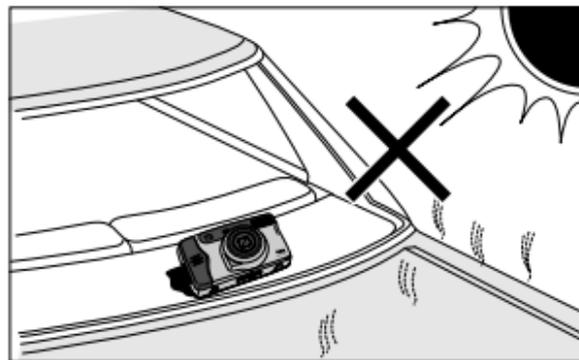
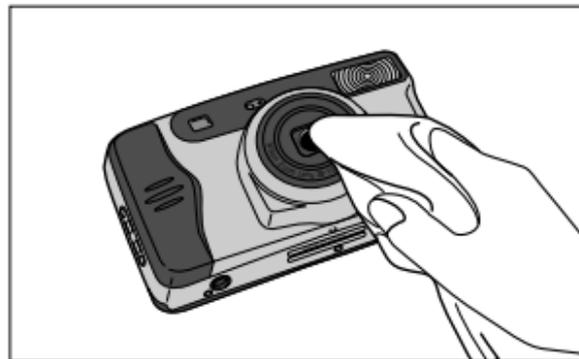
**警告****使用禁止**

シンナーやベンジンなどの有機溶剤をカメラの清掃に使用しないこと  
火災や健康障害の原因となります。  
製品を破損します。

- カメラをご使用にならないときは、必ずメインスイッチをOFFにしてください。ONの状態のままですと、不用意にシャッターボタンが押されて電池が消耗します。
- 閉めきった自動車の車内やトランクの中、夏の海辺、また、ストーブの前など、高温になる場所にカメラを放置しないでください。
- スピードライトを連続発光すると、電池やカメラの温度が上がります。休ませながら使用してください。
- 低温（0℃以下）の場所では、正常に作動しないことがあります。カメラを保温しながら使用してください。
- カメラ内部には高電圧回路があります。故障と思われるときは、危険ですから絶対に自分で分解なさらず、お買い求めのカメラ店または当社サービス機関（裏表紙参照）へお持ちください。



- カメラは精密機械です。落としたり、ショックを与えないでください。
- カメラはホコリを嫌います。ときどき、柔らかい布で軽く拭き取ってください。特に塩分、砂ボコリは早めに取り除いてください。
- レンズが汚れたときは、ブローブラシでホコリを吹き飛ばすだけにし、それでも汚れがとれない場合は、レンズクリーナーを少量つけて軽く拭いてください。オートフォーカス測距窓が汚れたときは柔らかい布で軽く拭き取ってください。
- シンナーやベンジンなど有機溶剤は絶対に使用しないでください。
- カメラは、高温多湿やほこりっぽい場所、ナフタリンやしょうのうの入っているタンスなどを避け、風通しのよいところに保管してください。なお、保管の際は乾燥剤（シリカゲルなど）と一緒に保管することをおすすめします。
- 長期間ご使用にならないときは、1カ月に1回を目安に、スピードライトの発光を行ってください。スピードライトのコンデンサーの劣化を防ぎ、長期間ご使用いただけます。
- 温度差が極端となるところ（寒いところから急に暖かいところ）にカメラを持ち込むと、カメラの内外に水滴を生じますので、カメラをバッグやビニール袋などに入れて、できるだけ温度変化をゆるやかにして、周囲の温度になじませてからカメラをご使用ください。



## 電池に関するご注意

- 付属の電池はご購入時の作動テスト用のもので、仕様どおりの寿命は保証できません。ご了承ください。
  - カメラを長期間使用しないときは、電池の漏液などからカメラを保護するためにカメラから電池を取り出して保管してください。
  - 電池の両極が汗や油などで汚れていると、接触不良の原因となります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
  - 大切な撮影に際しては、早めに電池を交換するか、予備の電池を携行するようにしてください。
  - 電池は火の中に投入したり、ショートさせたり、分解、加熱、充電したりしないでください。
  - 低温（0℃以下）の場所では、一時的に電池の性能が低下します。カメラをポケットのなかで暖めながら使用してください。なお、一時的に性能が低下した電池は、常温に戻れば性能を回復します。
- 電池は幼児の手の届かないところに置いてください。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

**■この製品についてのお問い合わせ**

ご意見、ご質問は、最寄りのニコンサービスセンター、サービスステーション等、当社サービス機関へお問い合わせください。

- 当社サービス機関につきましては、使用説明書裏表紙をご覧ください。

**■修理を依頼される場合は**

ご購入店、または当社サービス機関にご依頼ください。

- ご転居、ご贈答品などの理由で、ご購入店に修理を依頼することができない場合は、最寄りの販売店、または当社サービス機関にお問い合わせください。

**■補修用性能部品について**

ニコンZOOM600QDの補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後7年間を目安としております。

- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後におきましても、修理可能な場合もありますので、ご購入店または当社サービス機関にお問い合わせください。
- 水没、火災、落下などによる故障または破損で、全損と認められた場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、当社サービス機関にお任せください。

**■製品の保証について**

- この製品には「保証書」がついていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様にお渡しすることになっております。「ご愛用者氏名」及び「住所」「ご購入年月日」「ご購入店名」がすべて記入された「保証書」をお受け取りになり、内容をお読みの上、大切に保管してください。
- 保証規定による保証修理は、ご購入から1年間となっております。「保証書」をお受け取りになりませんと上述の保証修理が受けられないこととなりますので、もしお受け取りにならなかった場合は、ただちにご購入店にご請求ください。
- 海外での保証内修理は領収書の提示を求められることがありますので、保証書とともに領収書の携行をお願い致します（領収書のない場合は有料となる場合があります）。
- 保証期間経過後の修理は、原則として有料となります。また、運賃諸掛かりはお客様にご負担願います。
- 保証期間中や保証期間経過後の修理、故障など、アフターサービスにご不明なことがありましたら、ご購入店、または当社サービス機関にお問い合わせください。

**■使用説明書について**

使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、当社サービス機関にて新しい使用説明書をお求めください（有償）。

## 仕様

## 型式

ズームレンズ内蔵オートフォーカス35mmAEレンズシャッターカメラ

## 使用フィルム

パトローネ入り35mmDXフィルム

## 画面サイズ

標準時：24mm×36mm

パノラマ時：13mm×36mm

## レンズ

ニコンズームレンズ38mm～110mm

F4～F10.8、5群6枚

## シャッター

プログラムAE式電子シャッター（絞り羽根兼用）

## ファインダー

実像式ズームファインダー、視野率は通常時38mm：87%以上／110mm：86%以上／パノラマ時38mm：82%以上／110mm：85%以上、倍率38mm時…0.35倍、110mm時…0.92倍、視度調節機能付（-1.3DP～+0.8DP）

## ファインダー内表示

撮影範囲フレーム（近距離補正マーク付）、パノラマ撮影範囲フレーム（近距離補正マーク付）、オートフォーカスフレーム

## 赤色ランプ

スピードライト発光予告（点灯）／未充電警告（点滅）／AF表示（一瞬点灯）

## ピント合わせ

アクティブ測距方式、測距範囲0.86m～∞（スピードライトキャンセル時0.93m～∞）（最大撮影倍率110mm時約0.145倍）、遠景モード切り換え可能、シャッターボタン半押しによるフォーカスロック付、シャッターボタンロック付

## 露出制御

電子制御プログラムAE（Cds）、連動範囲ISO100で38mm時…EV6～15、110mm時…EV7～17.6  
スピードライト自動発光、デーライトシンクロ可能

## フィルム感度

ISO50、100、200、400、800、1600DXコードによるフィルム感度自動セット、DX以外のフィルムはISO100にセット

## フィルム装てん

オートローディング空送り機構内蔵、フィルム確認窓付

## フィルム給送

内蔵モーターによる電動式（スプールドライブ方式）、自動巻き上げ（1コマ）、フィルム終端検出による自動巻き戻し、途中巻き戻し

#### フィルムカウンター

液晶によるデジタル表示、順算式、巻き戻し時逆算連動、電池交換時自動1コマ送り

#### セルフタイマー

電子式、シャッターボタンによりスタート、作動表示点滅、点灯2段階、作動時間10秒、途中解除可能

#### スピードライト

自動発光、発光禁止、強制発光、スローシンクロの4モード切り換え可能、自動スピードライトモード設定時低輝度時自動発光、ガイドナンバー (GN) 約16 (ISO100・m)、未充電時シャッターロック付、スピードライト連動範囲38mm時：0.86～6.5m、110mm時：0.86～2.4m) (ネガカラーISO100の場合)、充電時間約8秒

#### 赤目軽減モード

設定時、低輝度時及びスピードライトが発光する場合に赤目軽減ランプ点灯 (1秒間点灯)

#### 液晶表示

フィルムカウンター、フィルムEL警告表示、スピードライトモード表示、セルフタイマーモード表示、遠景モード表示、バッテリーチェック表示、デート表示 (年・月・日・時・分)、写し込み表示、赤目軽減モード表示

#### 撮影可能本数

24枚撮りフィルム：13本、36枚撮りフィルム：9本  
(共に50%スピードライト撮影時)

#### 使用電源

3Vリチウム電池 (CR123AまたはDL123Aタイプ) ×1個

#### デート写し込み機構

方式…ボディ側の7ドットLEDによる写し込み、パノラマ切り換え可能、フィルム感度…DXコードにより自動切り換え式 (ISO50～1600)、データの種類…年・月・日・時・分 (24時間制)、〔年・月・日〕〔月・日・年〕〔日・月・年〕〔日・時・分〕〔写し込みなし〕 (切り換えは押しボタン式、2024年まで月末、うるう年自動修正、データ早送り修正可能)、電源…ボディの電源を使用、時計精度…月差±90秒以内

#### 大きさ (幅×高さ×奥行き)

約127×67×50mm

#### 重量

280g (電池別)

- データはすべて、20°C、新品電池使用時のものです。
- 製品の外観、仕様は改善のため予告なく変更することがあります。

